

## 第 6 回企画調整部会論点

## 論点 1 支援につながっていないひきこもり当事者とその家族への効果的なアプローチについて

## ＜主な意見＞

- ・ひきこもり当事者は支援につながることに消極的である。
- ・従来型のキャリア講座、就職支援にハードルの高さを感じている当事者が少なくない。
- ・当事者が関心があること、好きなことを通じてならハードルが低くなり、つながりたいと思ってくれる。
- ・ひきこもりの特性とコロナ禍の支援経験を踏まえて、対面とオンラインの複線的支援の検討が望まれる。
- ・支援者が当事者の日常生活に置かれている二次元平面の中で支援をする形がとれるのではないか。
- ・支援者がかかわりをもとう、引き出そうとすることに対して、当事者は「対面の暴力性」を感じる。オンラインの二次元平面であっても、他者と交流できることは嬉しい。

## (ひきこもり経験者からの御意見)

- ・ひきこもり当事者のための居場所という限定は、当事者にとって、かえって入りにくく感じる。ひきこもり当事者に限らず色々な人が集まる居場所は、今後増えたらよい。
- ・ずっと他者とかかわらずにいる当事者にとって、他者からアドバイスや声をかけてもらえることは嬉しい。

## 論点 2 オンラインによる支援の課題とあり方、オンライン支援から対面支援へのつながりについて

## ＜主な意見＞

- ・ひきこもりの特性とコロナ禍の支援経験を踏まえて、対面とオンラインの複線的支援の検討が望まれる。
- ・支援者が当事者の日常生活に置かれている二次元平面の中で支援をする形がとれるのではないか。
- ・支援者がかかわりをもとう、引き出そうとすることに対して、当事者は「対面の暴力性」を感じる。オンラインの二次元平面であっても、他者と交流できることは嬉しい。
- ・目的なく集まり、その中で、自分が何をしたいのか、何ができるのかということに気づき、行動していく場が居場所であると考え、オンラインで無目的な場を作る難しさを感じる。どのように作っていくべきかが課題である。

### 論点3 ひきこもり支援対象者のひろがりと今後の支援について

#### <主な意見>

- ・ひきこもりの概念が多様性を帯びてきており、非常に幅広い方々がいるため、全員に対して適切な支援を一律に用意するのは困難である。
- ・ひとりひとりの個別化視点に立って、支援を考えていくことが重要である。
- ・ひきこもりの問題は、いかに本人の意思を尊重しながら、本人の状態を鑑みながら、合意形成をしながら、社会的な包摂の道を歩むかということ。